特別養護老人ホーム◆デイサービスセンター◆居宅介護支援事業所

寿光園だより

No.133
令和３年４月発行

社会福祉法人 芸北福祉会
特別養護老人ホーム
寿 光 園
安芸太田町下筒賀821番地
TEL（0826）22-1075
FAX（0826）22-1076

●うつりゆく経営環境の変化……2
●善意ありがとうございました・職員紹介……3
●１年間ともに学んで……4

うつりゆく経営環境の変化

寿光園施設長　齋藤　正守

地域の皆様やご家族をはじめ関係者の皆様に見守られて四十八年。この間にいただきましたご厚情に心より感謝申し上げます。

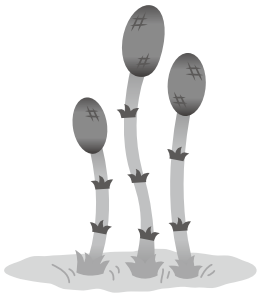
新型コロナウイルス感染という未曽有の恐怖の中で一年が経過し、待ち望んでいた施設入居所者へのワクチン接種が四月下旬から始まろうとしています。

施設を預かる責任者としてこれほどの朗報はありません。ワクチン接種を契機に、入居所者やご家族との面会制限が緩和され、一日でも早い普通の寿光園の姿を取り戻したいばかりです。

さて、施設開設以来四十八年の間に、多くの苦難を乗り越えてきました。措置入所から介護保険制度導入、施設の老朽化に伴う建て替え、入所待機者三百余名の時代から六十余名の時代へと大きな変遷をたどりながら今日を迎えています。

今施設が抱える課題は、事業規模を維持してゆくための介護従事者の確保にあります。国際的視野に立っての技能実習生の受け入れやそれに伴う寮の建設、未然に事故を予測するためのICTや介護ロボットの導入、安心して在宅での生活ができるよう、四月から訪問介護事業を開始いたしました。これらの施策を支えるためには、人材確保が避けて通れません。今後も知恵や制度を駆使して、安心して生活できる環境の構築に努めてまいりたく、新年度を迎え決意を新たにしているところです。

法人職員百六十四名が総力を挙げてこれらの課題に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



善意ありがとうございました

令和３年１月から令和３年３月までの、皆様からいただきました善意を紹介し、厚くお礼申し上げます。

ご寄付・ご寄贈（◎ご寄付・○ご寄贈）

◎亀井　康法様　お礼　　◎亀井　克子様　お礼

◎宮本　千春様　亡母ミチコ様　お礼

◎武本　宮紀様　亡父昭文様　お礼

◎大倉　福雄様・ナミエ様　お礼

◎川崎加代子様　亡母河野マツコ様　お礼

◎栗栖　修二様　お礼

行事予定

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事等は見合わせております。

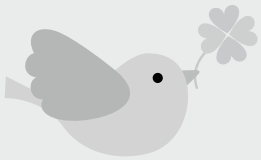
人事

◆4月1日付　採用

●辰川めぐみ

介護職員（デイサービス）

※利用者様のお顔が早く憶えられるように頑張ります！



お知らせ

今年度より、訪問介護事業で安芸太田町を担当することになりました。

栗栖真美・増谷清美・河野かおりです。

どうぞよろしくお願いします。

1年間ともに学んで

寿光園日本語講師　佐々木　亮

昨年４月より、インドネシアから来られた４名の技能実習生と一緒に、日本語の勉強をしてきました。寿光園の皆さんには、母がお世話になったので、その恩返しにと思い引き受けることにしました。

授業の経験があるとはいえ、不安に思うことが２つありました。第１は言葉の不安です。こちらの言っていることが伝わらなかったらどうしよう。英語で言う？それは無理だし…。第２は､「日本語能力試験Ｎ３」に合格させるだけの力をつけることができるか、ということでした。

第１の不安は、すぐに解消しました。インドネシアでＮ４に合格していること、日本に来てから約１ヶ月因島で研修してきていることで、私が思っていた以上に日本語ができるのでびっくりしました。日常のことはほぼ問題なく通じました。また、彼女たちは、とても人懐っこく、笑顔で受け答えができるので、多少難しいことであっても、お互いに言いたいことが理解できました。

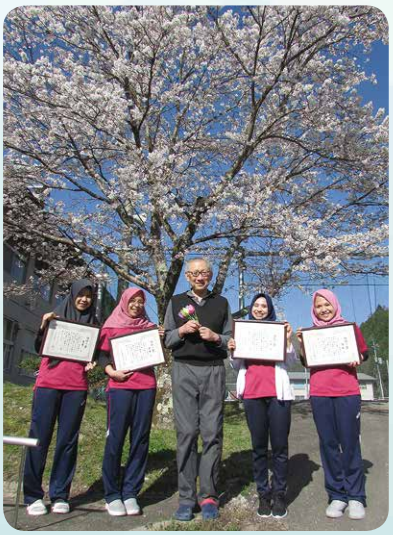
一方、第２の不安は、合格するまで続きました。楽しく勉強を進めたいと思いましたが、試験というハードルがある以上きっちり学ばなければなりません。試験のための問題集を少しずつ進めました。言語知識（文字・語彙)、言語知識（文法・読解)、聴解（聞き取りのこと）と試験も多岐にわたっているので、彼女たちもたいへんでした。それでも真面目にひたむきに取り組んでくれました

勉強していて驚いたのは漢字です。外国の人にとって日本語は、ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字とたくさんあるので、覚えるのは至難の技だと思いますが、最初の段階で彼女たちは結構力がついていました。そこで、それを活用できるようにするにはと考えました。文章を読むなかで、言葉の意味・漢字・文法・状況や気持ちの読み取りをしていきました。わかっているようでも、細かく聞いていくと、十分理解できていないことがあったので、相手の話していることや書いてあることが正しく理解することを一番に考え、こちらも国語辞典できちんと意味を調べながら勉強を進めました。また、文章を書く力もつけたいと考え、日記を書く取り組みもしました。

途中では、模擬試験も行い、実力をはかりながら学習していきました。７月の試験がコロナで中止となり、12月が初めての試験となりました。勉強だけでなく、試験の受け方なども伝え、最後まで諦めず頑張るよう励ましました。試験当日はこちらもドキドキしながら１日を過ごしました。試験後に様子を聞くと　今までの試験と傾向が違い、難しかったとのことで、本人たちは自信が無さそうでした。

１月の下旬、寿光園から電話がかかってきました。全員合格との朗報でした。思わず、ガッツポーズをしてしまいました。次の授業の時の彼女たちのうれしそうな顔はいまだに目に焼き付いています。私も嬉しいと同時にほっとしました。「本当におめでとう！　よく頑張りました」

３月25日に、最後の授業をしました。１年間の感想を述べてもらう中で、多くの感謝の言葉を述べてくれました。そして、その思いを込めて「ありがとう」という歌を歌ってくれ、手作りのチューリップの花をプレゼントしてくれました。ルルはグリーン、スチはパープル、フィフィはブルー、リアはピンクのチューリップでした。



童謡に「チューリップ」という歌があります。最後の歌詞は「どの花見てもきれいだな」です。どの色の花が優れていて、どの色の花が劣っているというのではありません。赤、白、黄色のチューリップの花が、それぞれの持ち味を生かして、精いっぱい輝いている様子を伝えてくれる歌詞です。４人がそれぞれ違う色のチューリップをくれましたが、姿形や性格はみんな違っていても、一人一人がそれぞれ自分の色で輝いてほしいと思ったことでした。

ルル、スチ、フィフィ、リア、仕事をしながらの勉強、よくがんばってくれました。ありがとう。

これからもよろしく。